



成田中だより

令和6年1月12日
成田市立成田中学校
TEL 0476-22-0304
生徒数 504名
文責 濱谷 昌人

〈令和5年度学校教育目標〉『 夢 へ 』

「誰もが夢を持ち、明日も行きたいと思える学校」を生徒とともに目指します！

始業式でのLGBTQ(性的少数者)についての話

～互いの個性を自然に受け入れ尊重し合える、心優しい学校に！～



◎体育館での3学期始業式、全校生徒で校歌斉唱！

◎生徒会役員によるスラックス着用PR（昨年度）

3学期始業式場で、私は思い切ってLGBTQ(性的少数者・性的マイノリティー)についての話を皆さんにしました。私は以前から、皆さんにはこの話をしなければいけないと強く思っていたのですが、千葉県でこの1月1日から『千葉県多様性尊重推進条例』が施行されたことを機に、ちょうど良いタイミングと考え3学期始業式で話すことにしました。この条例は、年齢や性別、障害の有無、国籍、性的指向・性自認など人々の様々な違いを尊重し合い、誰もが活躍できる社会づくりを目標に掲げているところが特徴です。そして、LGBTQ(性的少数者・性的マイノリティー)の方々が関わってくる「性的指向・性自認」については、中学生の皆さんには難しい問題だと考えています。だからこそ、曖昧あいまいにしておいてはいけないと思うのです。このことで苦しんだり悩んだりしている人達が少しでも減ってくれることを願いながら、始業式では、私の想いを伝えさせていただきました。成中生の皆さん、真剣に聴きいてくれて本当にありがとうございました。心の綺麗な皆さんきれいに話して良かったと私は思っています。以下は、始業式で話した内容です。もう一度読んでみてください。

始業式での話「千葉県多様性尊重推進条例とLGBTQ」

この2024年・令和6年になったことを機に成中生の皆さんにぜひとも知っておいてほしいことがあります。それは、この元日に、千葉県では、『千葉県多様性尊重推進条例』という法律が施行されたということです。先月の12月に、成田中学校にゆかりのある3人の元校長先生方をお呼びして『人権教室』を開催しましたが、そこで学んだこととも大きく関係する千葉県の法律、すなわち、条例が施行されました。今回施行された『千葉県多様性尊重推進条例』では、年齢、性別、障害の有無、国籍及び文化的背景、性的指向及び性自認などに関わらず一人一人が様々な違いがある個人として尊重され、活躍できる社会の形成を基本理



念に掲げています。『人権教室』では「自分の大切さと共に他の人の大切さを認めること」を学びました。この度施行された『千葉県多様性尊重推進条例』という新しい条例は、まさしく、そのことを実現していこうという千葉県の法律です。年齢、性別、障害の有無、国籍及び文化的背景、性的指向及び性自認などに関わらず一人一人が様々な違いを受け入れ、認め合い、そして、尊重し合っていこうという条例です。どんな違いがあっても、たとえ、その違いを持っている人が少数であっても、それはかけがえのない個性であり大切にされ守られ、幸せになってい

く権利を誰もが持っているということを、この条例は訴えていると私は理解しています。

そして、この条例の中にも取り上げられている「性的指向」や「性自認」という言葉を、皆さんはどれだけ理解できているのでしょうか。今の2・3年生の皆さんは、昨年度開催した『命の授業』の中で、日本赤十字病院の関先生から「LGBTQ」のお話をしていただいたことを覚えているのではないのでしょうか。「LGBTQ」は、性的少数者とか性的マイノリティーという呼

ばれ方もします。私達の社会の中には、一般的によく言われる男女の性だけではなく、それ以外の多様な性・・・ジェンダーとも言われますが、その多様な性を生きている人達があります。その人達を「LGBTQ」あるいは性的少数者・性的マイノリティーと呼んでいます。そして、性的少数者の方の中にも様々なタイプの人達がいるということも知っておいてください。例えば、体は男性として生まれてきても心は女性、つまり性自認は女性だという人、すなわち、心の性と体の性が一致していない人がいます。トランスジェンダーと



呼ばれる方々です。また、女性だけれども恋愛対象は男性ではなく女性だという人、すなわち、性的指向が同性となる同性愛が自然だという人がいます。女性ではレズビアン、男性ではゲイと呼ばれる方々です。さらに、少数ではあっても、そのタイプは多岐にわたるということも知っておいてください。そして、それぞ

れのタイプがたとえ少数であっても、尊重されるべきかけがえのない性のタイプ・ジェンダーであり、大切にされなければいけないと思うのです。そういう感覚を、私達はしっかりと持っていたいのです。自分達と違うタイプだからといって、決して差別したり侮辱したりすることは許されないのです。そういう人権感覚を、成中生の皆さんには身に付けていってほしいのです。いや、当たり前にしていってほしいのです。性的少数者と呼ばれる方を自然に仲間として受け入れ、仲良くやっていける学校であってほしいと私は願っています。

昨年度から、成田中学校では、女子生徒のスラックス



着用を積極的に推奨しています。そして、私は校長として、どの生徒がスカートやスラックスを着用することも、どの生徒がブレザーや学ランを着用することも本人の自由だと考えています。自分自身の自然な気持ちに従ってほしいと願っています。ただし、そのためには、周囲が様々な個性を自然に受け入れることのできる集団に成長できているかどうかということが重要になってくると考えています。だからこそ、今こうして皆さんにお話をしているのです。少数側にいる人達が苦しむ世の中や学校ではいけないと思います。ぜひ、『千葉県多様性尊重推進条例』という新しい条例が施行されたことを機に、成中生の皆さんにも、今日私が話したことをしっかりと受け止め理解し、考えてほしいと思います。



先月開催した『人権教室』の時に、最後にお話をされた佐々木先生が、一人一人のかけがえのない人権を守っていくために心掛けてほしい大切なこととして、「他人を支配しない。意見が合わない人を排除しない。そして、人との調和の感覚を磨く。そういう人生を歩んでほしい。そういう学校生活を送ってほしい」と強く訴えていました。今、まさしく、そのことが求められていると思っています。どうか、皆さんの力で、性的少数者の方だけではなく、年齢、性別、障害の有無、国籍及び文化的背景など関係なく、一人一人が様々な違いや個性がある個人として受け入れられ、認められる学校、そして、社会にしていきたいと思います。

真剣に聴いてくれてありがとうございました。



以上が、始業式で話した内容です。真剣に話を聴いていた皆さんの表情が目に焼き付いています。

昨年度、地元成田赤十字病院の医療社会事業課課長の関先生をお招きして、成田市教育委員会主催「いのちの授業」を開催していただきました。2・3年生の皆さんは覚えていると思います。講師としてお招きした関先生は、医療ソーシャルワーカーとして、今の複雑な社会の中で生きていくために苦しんでいる人々を救う取り組みを必死にされている方です。日々、様々な事情を抱えた方々と真摯に向き合い愛情をもってサポートし、多

くの人々を救ってきた関先生のお話の中には、LGBTQの方の話も含まれていました。

関先生は、「いのちの授業」を通して、障害の有無、男女の性差、高齢者や赤ちゃん、そして、LGBTQなど関係なく、世の中の全ての人々が分け隔てなく、その人らしい暮らしをしていくことのできる「共生社会」を築き上げていかなければならないと強く訴えていました。金子みすゞさんの詩を紹介しながら「みんな違ってみんないい！」と投げかけていましたが、本当にその通りだと思いました。

LGBTQの方も含め、様々な個性を互いに受け入れ尊重し、誰もが安心して過ごすことのできる心優しい世の中になっていくことを願っています。今の成中生の皆さんなら、きっとそんな学校、そんな社会を築いていってくださることと信じています。



2学期終業式からII ～代表生徒の意見発表 3年代表Tさん～

前号の学校便りで掲載することのできなかつた、2学期終業式で3年生代表として意見発表をしたT.K. (3年)さんの発表を紹介します。『2学期を振り返って』をテーマに、3学年全体としての反省と意気込みを語りました。落ち着いて自分自身の想いをしっかりと伝えていましたね。素晴らしい発表でした。

T.K.さん(3年)の「2学期を振り返って」



私達3年生にとって、この2学期は受験への意識が高まった学期でした。

まず、生活面の変化として、2分前着席などの意識が高まったことがあげられます。学級委員や委員会の活動により、以前より2分前着席を徹底できる人が増えました。しかし、まだ全員が完璧にできているというわけではないということが課題としてあり、一人一人が意識を高く生活することが、余裕を持って学習に取り組む上で大切なことです。3学年全員で、しっかり取り組めればと思います。

学習面としても当然ですが、意識が高まりました。特に3年生になってからこの12月までの間に、3回の定期テストと5回の実力テスト・・・合計8回

のテストの実施により、テスト前に準備、テスト後にしっかりと復習をするため、勉強する機会が以前より増えました。部活動引退後は、土日でも塾や家庭学習にあてる人が多く、実際にテストの学年平均も以前より高くなっています。

この2学期で、時間への意識、受験勉強への意識が高まりました。しかし、まだ課題もあります。受験は団体戦です。全員で受験への雰囲気や環境を作り、全員で受験に臨みましょう。

最後に、来年に向けた冬休みの目標です。それは、受験に向けて準備を完璧にするということです。年が明けると、すぐに私立高校の受験があり、2月には、公立高校の入試があります。これから、本当にラストスパートだと思います。受験勉強はもちろん、隙間時間も有効活用することも意識して生活していきたいと思います。また、受験では時間を見て行動することも大切なので、時間を見るということも、これまで以上に意識して冬休みを送りたいと思います。

3年生の皆さんはTさんの意見発表を受け、どのような冬休みを過ごしたのでしょうか。いよいよ来週から、県内私立高校の入試が始まりますね。最後の最後まで諦めずに取り組み、本番ではしっかりと力を出し切ってきてください。応援しています。

M.H.さん(2年)が千葉県知事賞受賞 ～社会を明るくする作文～

『社会を明るくする作文』コンクールで、成田市で最優秀賞を受賞していたM.H.さん(2年)の作品が、千葉県でも最高の賞である「千葉県知事賞」を見事に受賞しました。冬休み中の12月26日(火)に、千葉市生涯学習センターにて表彰式が行われました。成田中学校として大変誇らしいです。Mさんは、「地域社会の安全・安心のために」という表題で、保護司として長年の間、犯罪や非行を犯してしまった人達の更生のために尽力し続けているおじさんのことを書き上げました。おじさんへの尊敬の想いが伝わってくる作文です。保護司のおじさんは、犯罪を犯してしまった人に親身になって寄り添い、二度と犯罪を犯さないように支援し立ち直らせていく活動をし続けているとのこと。安全安心な地域社会を作ることにつながっていると綴っていました。そして、自分自身もできる範囲で犯罪や非行のない明るい社会をつくる活動に貢献できるようにしていきたいと結んでいます。素晴らしい内容の作文です。Mさん、「千葉県知事賞」の受賞おめでとうございました。

